

森美術館名誉理事長 森佳子が「森現代芸術財団」を設立

日本現代美術のグローバルな発展を支援すべく

海外キュレーター招聘と日本の中堅現代アーティストへのアワードを実施

森美術館の初代理事長であり、現名誉理事長の森佳子は、日本の現代美術を国際的なアート界へより広く発信することを目的に、2025 年 5 月 7 日、一般財団法人森現代芸術財団（Mori Contemporary Art Foundation/MoriCAF）を設立いたしました。

本財団は、海外のキュレーターを招聘し、日本のアーティストのリサーチや、美術関係者との交流の機会を提供するレジデンスプログラムならびに、日本のアーティストがグローバルな視点から評価される森アートアワードを実施します。これらの活動を通じて、日本の現代美術が国際的なアート界において確かな存在感を持ち続けられるよう、継続的に支援していきます。



撮影：新津保建秀

本財団の代表理事であり創設者の森佳子は設立に至った想いを次のように述べています。

「2003 年に開館した森美術館では、海外の主要な美術館と積極的に関係を構築し、国際的な基準を学びながら活動を展開してきました。世界各地のアートシーンを訪れるなかで、私が強く感じてきたのは、日本には優れた才能のあるアーティストが数多くいるにもかかわらず、彼らが世界に紹介される機会がまだまだ限られているということです。日本の現代アートをもっと世界の舞台へ、との思いを長年抱いてきましたが、このたび、美術館という枠組みとは異なるかたちで、個人として継続的にアーティストを支援していくために、「森現代芸術財団」を設立致しました。本財団では、海外のキュレーターを招聘して日本の現代アートをリサーチしてもらうレジデンスプログラムと、日本の中堅アーティストの国際的な飛躍を支援する「森アートアワード」を二本の柱として活動を行って参ります。いずれのプログラムにおいても、ニューヨークの MoMA をはじめとする世界の名だたる美術館の館長の方々に、国際選考委員としてご参加頂くことも大きな特徴です。いまこのような活動ができるのも、20 年を超える森美術館での積み重ねと、多くの方々との出会いがあったからこそです。この財団の活動がどのような成果を生み出していけるか、私自身、とても楽しみにしています。」

また、森美術館館長で本財団の国際選考委員長を務める片岡真実は、次のように述べています。「現代アートのコミュニティは 1990 年代以降、世界各地に拡がり、それぞれの地域から歴史的、文化的文脈に基づいたアートが積極的に発信されています。このグローバルなプラットフォームに特定の国や地域のアートを確かに位置づけるためには、戦略が必要です。森現代芸術財団の主要事業である専門家の交流や中堅作家の表彰を通して、日本の現代アートが世界と繋がり、創設者のビジョンが顕現することを願っています。」

本日より財団公式サイトを公開し、**海外キュレーター招聘（キュレーターレジデンスプログラム）の公募**をスタートしました。今後の財団の活動に関するニュースはメールニュース等（登録制）でも発信する予定です。

財団公式サイト <https://mori-caf.jp/>

森佳子 代表理事プロフィール

森ビル株式会社 取締役、森美術館名誉理事長。2003 年に森美術館の初代理事長に就任して以降、20 年以上にわたり日本の現代美術を牽引。

ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ（英国・ロンドン）トラスティー（1999 年～2017 年）、森美術館 理事長（2003 年～2024 年）、公益財団法人小田原文化財団 評議員（2009 年～）、公益財団法人西洋美術振興財団 評議員（2014 年～）、一般財団法人石川文化振興財団 評議員（2015 年～）、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ 名誉トラスティー（2017 年～）を務める。

フランス共和国レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ（2013 年）、英国名誉大英勲章 OBE（2025 年）を叙勲。

財団活動

1. キュレーターレジデンスプログラム

日本の現代美術に関心を抱く海外在住のキュレーターを招聘し、日本で活動する様々なアーティスト、美術館、国際展、ギャラリーなどの調査、交流の機会を提供し、その成果を海外の舞台で発信してもらうことで日本の現代美術の国際的な発信を後押しすることを目的とする。

◎対象：日本国内の現代美術のリサーチを希望する国外在住のキュレーター（国籍不問・日本在住者は対象外）

◎人数：3～4 人/年

◎期間：2 週間～3 ヶ月程度

◎募集方法：財団公式サイト上にて公募

◎対象キュレーターは、レジデンスプログラム終了時に、成果報告を実施する。

◎キュレーターレジデンスプログラム 2026 | 選考スケジュール（予定）

公募締切 9 月上旬、発表 10 月下旬、活動開始 2026 年 2 月以降

2. 森アートアワード

日本の現代アーティストのなかでも、とりわけ中堅作家が次のグローバルなステージへ羽ばたくための表彰制度として、「森アートアワード」を実施する。2 年に一度開催される本アワードでは、過去 2 年間に発表された優れた展覧会や作品をもとに日本国内の推薦委員によってアーティストが推薦され、国際選考委員会による書類選考を経て 4 名のファイナリストが選出される。その後、最終選考（プレゼンテーション等）を経て 1 名の最優秀賞受賞者を決定し、賞金 1,000 万円と受賞を記念した作品展示の機会（森美術館との共催）が提供される。ほか 3 名のファイナリストにはそれぞれ賞金 100 万円が授与される。

◎対象：日本を拠点に活動、あるいは海外拠点であっても日本と関係の深い中堅アーティスト。年齢制限は設けない。

◎推薦委員：全国の公・私立美術館の学芸員 6 名

◎選考方法：一次選考を書類選考（オンライン）で実施し、ファイナリスト 4 名を選出。最終選考は、対面による国際選考委員会へのプレゼンテーションと面接により最優秀賞受賞者 1 名を決定。

◎森アートアワード 2026 | 選考スケジュール（予定）

推薦締切 9 月上旬、ファイナリスト発表 10 月、最終選考・最優秀賞受賞者発表 2026 年 2 月下旬

2026 国際選考委員会（上記 2 プログラム共通）

片岡真実（森美術館 館長、選考委員長）

ラーナ・デヴェンポート（南オーストラリア州立美術館 元館長 [アデレード]）

グレン・ラウリィ（ニューヨーク近代美術館 館長）

フランシス・モリス（テート・モダン 元館長 [ロンドン]）

スハーニヤ・ラフェル（M+ 館長 [香港]）

ユージン・タン（ナショナル・ギャラリー・シンガポール 館長、シンガポール美術館 館長）

■ 「森現代芸術財団」組織体制（敬称略）

理事

森 佳子〔代表理事〕 | 森美術館 名誉理事長
森 京子〔専務理事〕 | 森美術館 理事長
大林剛郎 | (株)大林組 取締役会長
木村絵理子 | 弘前れんが倉庫美術館 館長
末松垂斗夢 | (株)TOLOT 代表取締役社長
古田 亮 | 東京藝術大学大学美術館 教授

評議員

森 泰子 | 森喜代株式会社 代表取締役社長
今村啓一 | 元公益財団法人 NHK 交響楽団 理事長
大原あかね | 公益財団法人大原芸術財団 代表理事
河合美宏 | 東京大学公共政策大学院 客員教授
藤本壮介 | 株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表取締役
平尾恒明 | EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 チーフ・エグゼクティブ・コンサルタント

監事

樽本 哲 | インテアス法律事務所 代表弁護士
松岡章夫 | 松岡大江税理士法人 代表社員・税理士

事務局長

片岡真実〔国際選考委員長兼務〕 | 森美術館館長

【本リリースに関するプレス問い合わせ先】

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

西谷（リレーリレーLLP） 電話：090-2062-6963 e-mail：press_81@relayrelay.net